
平成30年度 病害虫発生予報 第8号

平成30(2018)年11月16日
栃木県農業環境指導センター

○予防・発生初期防除を心がけ、病害虫を収穫盛期に持ち越さないようにしましょう！

予想期間 11月下旬～12月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比130.4%：ほ場率 平年比457.1%：発生株率)。(+)
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対策 ・ハウス内の雑草はアザミウマ類の増殖源になるので除草する。
・ミツバチや天敵を導入している時期なので、発生が見られる場合はマツチ乳剤[[ミツバチアザミウマ](#)]等のIGR剤を散布する。
・花を観察して、その1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナSCを散布する。
- (4) 備考 ・秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設では、注意が必要である。
・スピノエース顆粒水和剤やディアナSCは、天敵やミツバチへの影響があるので注意する。
・[病害虫防除対策のポイントNo.19いちごのアザミウマ類](#)、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。
-

2 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根拠 ・現在の発生量は平年並み(平年比70.3%：ほ場率 平年比100.0%：発生株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対策 ・天敵放飼前に発生が見られた場合は、モスピラン顆粒水溶剤等を散布する。天敵放飼後に発生が見られた場合には、ウララDF等を散布する。
- (4) 備考 ・天敵の放飼を行っている場合は薬剤選定に注意する。
-

3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**少ない**
- (2) 根拠 ・現在の発生量は少ない。(－)
・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。(±)
- (3) 対策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
・予防を主体にセイビアーフロアブル20等を葉裏にもよくかかるよう散布する。
・発生が見られたらポリオキシシンAL水溶剤等を散布する。
- (4) 備考 ・微生物防除剤(ボトキラー水和剤等)は発病前～発病初期に使用する。また、低温条件では効果が出にくいので、施設内温度は10℃以上を確保する。
・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。
-

4 トマト すすかび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並み**
- (2) 根拠 ・現在の発生量は平年並み(平年比132.9%：ほ場率 平年比41.2%：発生株率)。

(±)

向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。(±)

- (3) 対策
- ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。
 - ・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・発生初期にネクスターフロアブル等を葉裏によくかかるように散布する。

5 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量は多い(平年比166.3%：ほ場率 平年比142.3%：株率)。(+)
 - ・向こう1か月の降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。(±)
- (3) 対策
- ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。
 - ・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
 - ・予防を主体に銅剤やダコニール1000等を散布する。
- (4) 備考
- ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠
- ・現在の発生量はやや多い(平年比161.9%：ほ場率、平年比446.4%：発生株率)。(+)
 - ・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対策
- ・薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
 - ・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤等を散布する。
- (4) 備考
- ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	少	トマト	コナジラミ類	平年並	やや多
	ハダニ類	やや少	平年並	きゅうり	うどんこ病	平年並	やや多
	コナジラミ類	やや少	平年並	きく	アザミウマ類	少	やや少
トマト	葉かび病	少	少				

○水稲の縞葉枯病(媒介虫：ヒメトビウンカ)、黄萎病(媒介虫：ツマグロヨコバイ)防除対策

・縞葉枯病や黄萎病が発病した再生稲(ひこばえ)は、次年産の伝染源となるので丁寧な耕起を行いましょう。

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう!

○同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報(予報期間11月17日から12月16日 11月15日気象庁発表)

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並みの確率40%です。日照時間は、平年並みの確率40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率60%です。3~4週目は、高い確率40%です。

	低い(少ない) 確率	平年並の確率	高い(多い) 確率
○気温	10%	30%	60%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	30%	40%	30%

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問い合わせください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。